

発行所：社団法人 全国鉄道広告振興協会

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1丁目5番5号 JR恵比寿ビル10階
TEL：03-5791-1808 FAX：03-3443-1616 メールアドレス：information@jarap.jp
URL：<http://www.jarap.jp/>

中之島地区では、文化・国際・ビジネスの交流・情報拠点を旨として、中之島西部再開発計画などのビッグプロジェクトが着々と進行中である。大阪国際会議場や、朝日放送新社屋が核施設である複合街区「はたるまち」、大阪大学中之島センター、関電ビルディング、国立国際美術館などがすでに完成している。新線開通により、市立近代美術館（仮称）、関電・ダイ

新線開通により、大阪の都心部でありながら鉄道空白地帯であった中之島エリアの利便性が飛躍的に向上するほか、大阪の文化・ビジネスの中心・中之島と国際観光都市・京都が一本の電車で結ばれるなど、新たなネットワークが誕生する。

中之島線は京阪電車天満橋駅から分岐し、「なにわ橋駅」「大江橋駅」「渡辺橋駅」「中之島駅（大阪国際会議場）」の4駅を新設する、全長2.9kmの全線地下線である。

水都大阪のシンボルアイランド “中之島”へ鉄道アクセス ——中之島線いよいよ開業——

巻頭レポート

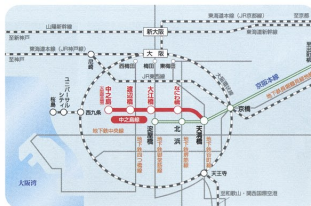


中之島地区のビル街

ビル共同開発計画、朝日新聞大阪本社・フエスティバルホールなど、新施設の工事着工・計画に弾みがつき、関西経済の活性化に寄与するものと期待されている。

**中之島線全体の媒体設置
コンセプト**

中之島線が大阪の都心を東西に横断



中之島線路線図

する路線であることから、広告媒体を設置するにあたってのコンセプトは「アーバン・アド」とした。

最新の技術を取り入れ、都会的なセンスをさり気なく表現する媒体を目指した。

(株)京阪エージェンシー
業務部
媒体グループ部長
西山 一則

中之島線各駅の特徴と広告媒体

☆「中之島駅」(大阪国際会議場)は中之島線の終着駅で、大阪の国際都市としての機能が集中するエリアにある。

駅名自体が中之島線全体を象徴すると共に、コンコース階は波型のガラス壁面で「水都」を表現、ホーム階の壁面には、国際都市として求められる「和」の感覚や

中之島駅



ホーム階イメージ



コンコース階イメージ

「大人の街」中之島を象徴する素材として、「木」を使用している。

広告媒体としては、コンコース階を中心に電照看板やラック広告・映像媒体を配したほか、京阪電車では初めてとなる電照式B0及びB2ポスター枠を設置している。

☆「渡辺橋駅」から堂島川を渡ると、す

渡辺橋駅



ホーム階イメージ



コンコース階イメージ

ぐに大阪駅前のビル群が見えてくる。北新地も近く、梅田地区に向かう南の玄関口として期待されているほか、地下鉄四つ橋線(肥後橋駅)とも接続する。

コンコース階は、地上部の賑わいと豊かな自然環境を「ガラス」と「緑」のモチーフで表現し、ホーム階の壁面には、中之島の未来をイメージさせる「金属材」を使用している。

広告媒体では、中之島駅と同様、コンコース階の電照看板やラック広告・映像媒体、電照式B0及びB2ポスター枠に加え、ホーム階の壁面にはバックライトにLED光源を用いた電照看板を設置する。

☆「大江橋駅」は御堂筋に接し、大阪市役所や日本銀行などがある大阪の心臓部の真下に位置する。また橋を渡れば賑わいの象徴として名高い「北新地」にもすぐである。

コンコース階は「行灯」をイメージさせる光の壁で「和」を演出し、ホーム階の壁面には、大阪市庁舎や日本銀行大阪支店にも使われて中之島の現代を代表する素材である「石」を使用している。

広告媒体は渡辺橋駅同様、コンコース階の電照看板やラック広告・映像媒体、電照式B0及びB2ポスター枠、ホーム階壁面にはバックライトにLED光源を用いた電照看板を設置する。

☆「なにわ橋駅」の出入り口部分は、世界的建築家である安藤忠雄氏が設計し

大江橋駅



ホーム階イメージ



コンコース階イメージ

た。中之島公園内という立地から、芸術性を求めたデザインでありながら、周囲の景観と調和するように配慮されている。

コンコース階は地下1・2階が2層吹き抜け構造。ホーム壁面には、最寄りの施設である中央公会堂をイメージした「レンガ調」の素材を使用している。



中之島駅・渡辺橋駅・大江橋駅 出入口イメージ

「なにわ橋駅」の広告媒体としては、コンコース階に電照看板ラック広告、B0駅貼りや電照B2ポスター枠を設置する。

以上のように、各駅の看板媒体は通常の電照看板をコンコース階に設置し、「大江橋駅・渡辺橋駅」のホーム階壁面にはLED光源を用いた電照看板を設置する。

なにわ橋駅



コンコース階イメージ



ホーム階イメージ

映像媒体は「大江橋・渡辺橋・中之島」各駅のコンコース階に各々1カ所設置する。

駅貼媒体としては、従来の沿線26セグメント駅貼に中之島線の4駅を加えた沿線30セグメント駅貼や、従来のパワフルボード（淀屋橋駅・京橋駅の連貼可能駅貼）に、中之島線3駅（大江橋駅・渡辺橋駅・中之島駅）を加えたパワフルセグメント駅貼（媒体名を変更）を設置し、販売を行っていく。

また、中之島線のみに掲出可能な駅貼媒体として、中之島セグメント（電照B0駅貼）や渡辺橋駅パノラマボード（B0×8枚）を設置する。

中之島線を走行する 3000系車両の広告媒体

「中之島駅」と京都の「出町柳駅」間では、新型車両3000系を運行する。その外観は、水都大阪を想起させると同時に、



3000系 ジャックのイメージ



3000系 車両の外観

京のれんや紺袴など、古都京都の伝統と格式を感じさせる紺色を基調とし、都市のきらめきや石庭の川の流れるを表す銀帯に、白色を加えた3トーンからなっている。

3000系車両の広告は、フルジャックとハーフジャックなどの集中広告枠として販売を展開する。

中吊・ドア横顔面・連結側面といったあらゆる広告枠をフル活用するインパクトは抜群で、強い印象を残すことができると考えている。

今後の京阪電車の動き

京阪電車では、開業100周年（2010年）という大きな節目を迎えるにあたり、中之島線開業に合わせて、半世紀ぶりに全車両のカラードザインを更新する。

新たな京阪グループシンボルマークの制定、新型車両3000系の導入、既存車両のカラードザイン更新を連動して進め、次の時代に向けて「新しい京阪」のブランド形成を目指していく。

このように中之島線開業と同時に行う諸施策が、京阪媒体の広告訴求力向上に確実に繋がるものと当社では期待している。



新塗装の京阪電車車両（平成24年までに全車両塗装変更予定）

「オリンピック雑感」

理事 松本 茂 (東日本旅客鉄道株式会社 事業創造本部)



4年に一度のオリンピック。その北京大会が当初の大方の心配をよそに、8月24日、17日の日程を順調に消化し、無事に閉会式を迎えた。開会式に至るまでのプロセスでは、残念ながらネガティブな話題がマスコミを賑わした。何といっても最大のつや消しは「チベット問題」への中国政府の対応にあったように思う。極めて異様な光景の中で展開された聖火リレーに対して、世界中のメディアの視点は「中国は民主的國家なり得るのか」「我々の仲間たり得るのか」という点にあったと思う。しかし、世界の人々の懸念に反して、中国のナショナルイズムは昂揚の一途をたどっていた。

世界中の国が嚴重な警戒態勢を布いた聖火リレーだが、日本国内では唯一長野市内で行われた。中国関係者一行の宿泊先には、私どもの「ホテルメトロポリタン」長野が選ばれ、また、長野から東京への帰路には新幹線が選ばれた。ホテルにとっては大きな特需ではあったが、恥ずかしい話だが、私にとって世界の民族問題を今更には身近に、しかも緊張感を持つて感じさせられたことはなかった。

特需ついでにもうひとつ、弊社の長期滞在型ホテル「フォルクロロ」いわて東和がギリシャのボート選手との合宿所に使われた。練習場に適した湖が近くにあるという点も評価のひとつだったが、何よりも深刻な大気汚染の選手への影響を懸念しての対応であった。私はこれまで2度北京を訪ねたことがある。中国鉄道部の友人と歩いた秋晴れの北京の空を今でも覚えている。「こんな状態で大丈夫だろうか」「無事終了」を願ってスタートしたオ

リンピックであった。

しかし、いざスタートしてみると、メダルの数ではアテネには及ばなかったものの、日本人選手の活躍アシリートとしての成長など、感動と興奮を覚えた素晴らしい大会となった。日本中が応援の熱気を帯び始めたのは、柔道内装正人選手の新メダルからではないか。谷本歩実選手の爽快な内股、姉妹の二人三脚で掴んだ上野雅恵選手の新メダルと続き、応援のボルテージは上がる一方となった。家族を中心に選手を陰で支え続けた人々の存在もまた大きく取り上げられた。

日本中の応援に応えるように、選手の活躍は水泳、体操、レスリング、そして男子400mリレーと続いていた。北島康介選手は4年前、「チョー気持ちいい」を流行語にさせた。その後「あれが同じ北島なのか」と誰もが思うほどの「燃え尽き症候群」に襲われたが、北京で見事なまでにカムバックした彼は、一回りも二回りも器の大きな青年に成長していた。体操もレスリングも選手各人のメダルの色はそれぞれだが、どれも本人にとっては金メダルと率直に喜んでいたい姿に、やるべきことをすべてやり尽くしたアシリートとしての達成感と誇りに敬意を払わずにはいられなかった。400mリレーでは、「勝利の女神が最後に微笑む」とは正にこのような瞬間なのだった。

大会を見事に締めくくったのは、ソフトボールの金メダル。誰かが言っていたが、「悲願」



聖火リレー当日の長野駅コンコース

という言葉は外国語に翻訳が難しいらしい。繰り返し報じられる金メダルの瞬間の映像に、「これが悲願というものかと教えられた。そんな偉業を笑顔でさわやかにやってのけた上野由岐子選手、彼女を讃える言葉を選ぶのは決して容易なことではない。

感動の日々はあつと言間に過ぎ去ってしまった。これで寝不足、仕事中的アクビから開放されることとした。気がつけば、母に手を引かれ、実家に近い県庁前でオリンピック聖火リレーのオレンジ色の焔に目を見張はり、オリンピックの存在を知ってから、早いもので44年の歳月が流れていた。

今回は理事 豊田克孝氏の予定です、お楽しみに。

平成20年度第2回理事会を開催

9月11日(木)ホテルオークラ福岡(メイフニア)において平成20年度第2回理事会は44名の理事が出席(含む代理出席、委任出席)し開催した。

理事会の審議経過は以下のとおり

I. 公益法人制度改革に伴う 本会の対応について

- i) 岩崎法人改革特別委員長から、
- ii) 法人改革3法が定めている改革の方向と具体的内容及び
- iii) それに対する当協会としての対応の基本的考え方について以下の資料に基づき説明があった。

【説明資料】

1. 公益法人改革の主旨

- (一) 現行公益法人の設立許可は主務官庁毎に行なわれているため許可基準が必ずしも統一されておらず、その数も約2万5千と云われる。

- (二) またこの主務官庁制が結果として、いわゆる天下りを生み談合など不祥事を誘発したとして世間の批判を浴びている。

- (三) こうした状況に鑑み、行革の一環として現行の主務官庁制を廃して内閣府に統合し、改めて公益性(不特定多数のための利益)についての共通の物差しを適用し抜本的な改革を行なおうというのが今回の改革の主旨である。

2. 公益法人改革スケジュール

- (一) 改革3法の施行(平成20年12月1日)に伴ない、現行社団法人は民法特例法人となる(施行から5年間)

- (二) 5年以内(平成25年11月30日まで)に新法人への移行が必要

(三) 選択肢

- ① 一般社団法人に移行
定款改正後、内閣府に移行認可申請
↓ 登記

- ② 公益社団法人に移行
移行認可を要するのは、積立てられた公益目的財産を保護するため。

- a 公益法人化に向け、当面、一般法に適合するための定款改正

- ↓ 国土交通大臣に認可申請。認可後は組織は民法特例法人のまま

- b 然る後に公益性の実証とそれに伴う

- 所要の定款改正を行い公益認定申請→公益社団法人
- ③ NPO法人に移行
- ④ 上記のいずれも選択しない場合は25年11月30日をもって法律に基づき解散したものとみなされる。

3. (社)全国鉄道広告振興協会としての対応案

- (一) 公益社団法人を目指す
3年前の「社団法人設立の経緯、その後の活動の実態、社会的ステイタス、信用維持の観点から公益社団法人を目指すことが適当と思われる。

(二) 手順

- 前記選択肢の2(三)②による。(2段階ロケット方式)

- (三) その際留意すべき点「公益性」

a 公益性の意味

- a 不特定多数の人々の利益の増進に寄与すること、限られた業界団体内の利益の増進は「公益性」であり、「公益性」は異なる。

b 当協会に当てはめた場合

- 環境、倫理、美観風致、安全、公益、その他(標準化、人材育成、技術開発、調査研究など)については公益と見なされるおそれがある。

- c そこで、公益性を媒介にした公益性の論理の展開が必要。受益の範囲が1次的には業界内であつてもその事業を

介して広く社会全般にも利益が及ぶことに言及する必要がある。

- つまり、こうした公益活動が商品の氾濫、商品バリエイの時代にあつて、過不足のない適時の確な情報発信を可能ならしめ消費者層の利益につながることをなるので、公益性と云うことができる。

- ② 公益認定法第2条第4号別表「公益目的事業」の該当項目の検証
7、11、16、19、20、22等(P7表参照)



以上について、数名の理事より、「公益社団法人になることなどのようなメリットがあるのか、また一般社団法人との差などについて、説明して欲しい」と意見があった。

これに対して塚越特別委員会幹事より次の通り回答があった。

公益社団法人になるメリットは4つあり、1つは一般社団法人は誰でもなれるが、公益社団法人は認定が必要なので社会的信用を維持することができるという点、2つめは税制面で、公益社団法人が収益事業で収益を得た場合、一般社団法人だと、収益事業で得た収益に対して税金が普通にかかるのに対して、公益社法人だと優遇されるというメリットを享受できる。3つめはやはり税制面で、公益社団法人に寄付をする場合、通常に比べ損金処理の枠が広がるという税務上のメリットがある。4つめは、今までの公益法人が一般社団法人に移行する場合公益法人として取得した財産を公益のために使い、それを一度清算して0にしたいとはいけないというデメリットが発生するが、公益社団法人になる

理事会決議事項から会長決定事項への変更

（委員会に関する事項の決定）

（2）第2次定款改正案

①会の名称変更

②事業目的及び内容の改正

5. 今後のスケジュール（予定）

平成21年	平成20年
11月 委員会において定款改正案（第1次）の決定	11月 委員会において定款改正案（第1次）の決定
12月 理事会において定款改正案の承認、臨時総会の招集	12月 理事会において定款改正案の承認、臨時総会の招集
臨時総会において諸規程類改正案の決定	臨時総会において定款改正案（第1次）の議決
1月 国土交通大臣に定款改正を受けたい認可申請	
委員会において諸規程類改正案の決定	
3月 理事会において諸規程類改正案の議決	
6月 委員会において公益社団法人移行のための定款改正案（第2次）の決定	
理事会及び定期総会において定款改正案（第2次）の議決、定款改正案（第2次）を添付し内閣府に定款改正案の認可、公益認定の申請	

【参考】

特別委員会の審議経過

第1回委員会（7月2日開催）

（財）公益法人協会 宮川守久理事を招聘し、今回の公益法人改革の概要と移行のポイントについて講義を受けた。

第2回委員会（9月3日開催）

●公益法人改革に伴う基本的な考え方
公益社団法人を志向することとし、その方法論として一般法に適合するための定款改正を行ない国土交通大臣に認可申請（認可後も組織は民法特例法人のまま）、その後、公益性の実証とそれに伴う所要の定款改正を行い、内閣府に公益認定申請を行うことについて合意した。

●定款改正案と主な改正ポイント
後述の第1次、第2次定款改正のポイントを説明。

●今後のスケジュール
後述のスケジュールに基づき、来年度定期総会終了後に公益認定の申請を行う。

第3回委員会（10月1日開催予定）

特別委員会メンバー（敬称略）

委員長 岩崎雄一（ＪＡＲＡＰ）

副委員長 関宮泰三（協立広告）

幹事 塚越亮一（ＪＲ東日本）

委員 鈴木弘道（ＮＫＢ）

鈴木馨（ジェイアール）

神田橋治（ＴＯＭＯＥ）

③公益目的事業比率の維持
公益目的事業費が全事業費の50%を超えていること。
逆に云えば、その限度において（公益目的事業を支えるための）収益事業がおける。

※なお上記（2）（3）を含む公益認定基準該当性については毎年審査があり、公益性の条件を満たしていないと判定されれば公益認定が取消される。

4. 法人改革3法施行に伴う主な定款改正点

（1）第1次定款改正案

①定款の絶対的記載事項の追加（公告方法）

②会員種別の見直し（特別会員の正会員への組み込み）

③理事に関する規定の改正（代理出席の禁止と理事数の削減）

④監事に関する規定の改正（監事の権限の拡充と任期の延長）

⑤理事会議事録署名名人に関する規定の改正

⑥事業計画及び予算に関する規定の改正

⑦事業報告及び決算に関する規定の改正

⑧各機関の権限の見直しに関する規定の改正

総会決議事項から理事会決議事項への変更

（支部の設置・入会基準の制定、財産の管理方法の決定、事業計画・予算の決定、事務局に関する事項の決定）

のであれば、財産をそのまま維持できるという法人にとってのメリットがある。

以上の質疑のあと岩崎会長から、最終的には今回の理事会で本日の議論も踏まえ第2次案を提案し、ご審議いただきいたいと思っているが、資料を読んで理解をさせていただくと同時に、周りの人にもこの問題をよく説明しておいていただきたいと要望があった。

以上の質疑応答があり、本議案は承認された。

Ⅱ、(財)日本宝くじ協会に対する平成21年度助成申請について

国土交通省鉄道局総務課から「平成21年度における自治宝くじの普及宣伝を行なうための公益法人に対する助成申請の受付について」の連絡があった。

当協会では、昨年度、今年度と継続して地球温暖化防止全国キャンペーンを実施したことによって、①環境問題に対する鉄道利用者への啓蒙、②鉄道広告のネットワーク効果の検証、③当協会の知名度の向上等に成果をあげてきた。については、来年度も継続的に同キャンペーンを実施することとし、時期、内容等実施方法については早速に検討を開始し、次の理事会に実施案を諮ることとした。

なお、今年度は地球温暖化防止全国キャンペーンについて(財)日本宝くじ協会の助成申請が不採用となり、急遽(財)日本交

通文化協会に助成を仰ぎ、格別のご理解とご支援を賜りキャンペーン実施に至った経緯があるが、来年度については、(財)日本宝くじ協会からの助成を復活させるべく、助成金額に見合う協賛表記の改善等を含めて申請を行うこととした。

以上を前提に、受付期間の10月15日(水)までに(財)日本宝くじ協会に助成申請を行ないたい。と河田専務理事から説明があり本議案は承認された。

Ⅲ、支部長・委員長の委嘱変更について

1. 支部長の委嘱変更について

川田専務理事から、支部長の人事異動等に伴い、定款施行規則第20条に基づき、平成20年9月11日付で以下のとおり支部長の委嘱変更を行ないたいと説明があり承認された。(敬称略)

北海道支部 支部長

(退任) 千葉 律雄

(新任) 山口 力

(株)北海道ジェイアールエージェンシー代表取締役社長

中部支部 支部長

(退任) 今村 元

(新任) 石塚 正孝

(株)ジェイアール東海エージェンシー代表取締役社長

四国支部 支部長

(退任) 松尾 健二

【表】

公益認定法第2条第4号別表に定める公益目的事業

- 1 学術及び科学技術の振興を目的とする事業
- 2 文化及び芸術の振興を目的とする事業
- 3 障害者若しくは生活困難者又は事故、災害若しくは犯罪による被害者の支援を目的とする事業
- 4 高齢者の福祉の増進を目的とする事業
- 5 勤労意欲のある者に対する就労の支援を目的とする事業
- 6 公衆衛生の向上を目的とする事業
- 7 児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業
- 8 勤労者の福祉の向上を目的とする事業
- 9 教育、スポーツ等を通じて国民の心身の健全な発達に寄与し、又は豊かな人間性を涵養することを目的とする事業
- 10 犯罪の防止又は治安の維持を目的とする事業
- 11 事故又は災害の防止を目的とする事業
- 12 人種、性別その他の事由による不当な差別又は偏見の防止及び根絶を目的とする事業
- 13 思想及び良心の自由、信教の自由又は表現の自由の尊重又は擁護を目的とする事業
- 14 男女共同参画社会の形成その他のより良い社会の形成の推進を目的とする事業
- 15 国際相互理解の促進及び開発途上にある海外の地域に対する経済協力を目的とする事業
- 16 地球環境の保全又は自然環境の保護及び整備を目的とする事業
- 17 国土の利用、整備又は保全を目的とする事業
- 18 国政の健全な運営の確保に資することを目的とする事業
- 19 地域社会の健全な発展を目的とする事業
- 20 公正かつ自由な経済活動の機会の確保及び促進並びにその活性化による国民生活の安定向上を目的とする事業
- 21 国民生活に不可欠な物資、エネルギー等の安定供給の確保を目的とする事業
- 22 一般消費者の利益の擁護又は増進を目的とする事業
- 23 前各号に掲げるもののほか、公益に関する事業として政令で定めるもの

(新任) 高橋 利治

(株) ジェイ・エル・四国企画代表
取締役社長

2. 正副委員長の委嘱変更について

川田専務理事より正副委員長の人事異動等に伴い、定款施行規則第14条に基づき、平成20年9月11日付で以下のとおり支部長の委嘱変更を行ないたいと説明があり承認された。(敬称略)

環境安全委員会 副委員長

(退任) 齊藤 雄彦
(新任) 稲垣 義孝

(株) 東京メディア・サービス代表
取締役社長

標準化委員会 副委員長

(退任) 千葉 律雄
(新任) 山口 力

成田 和雄
協立広告(株)取締役媒体本部長

6月に開催した総会后、各委員会は会議を開くなど、活発に委員会活動を展開している。

人材育成委員会

人材育成委員会では7月8日に小委員会を開催し、今年度の交通広告実務研修会の実施や海外視察研修の実施等に

業務近代化委員会 副委員長

(退任) 松尾 健二
(新任) 高橋 利治

PR委員会 委員長

(退任) 今村 元
(新任) 石塚 正孝

法人改革特別委員会 副委員長

(新任) 間宮 泰三

【報告事項】

1. 各支部長から支部活動状況及び、これからの予定について報告があった。

2. 9月19日(金)、「国土交通大臣の所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則」第9条第2項の規定により、当協会の業務及び財産状況に係る検査を受ける予定であるという報告があった。

3. 今後の理事会・総会開催予定については以下を予定している。

第3回理事会

日時・平成20年12月2日(火)14時30分
会場・ホテルメトロポリタンエドモント

(飯田橋)

※理事会終了後、セミナー、懇親パーティーの開催を予定

第4回理事会

日時・平成21年3月
会場・調整中

臨時総会

※公益法人制度改革に伴う定款改正等の移行措置が第3回理事会に諮られ、その必要性が議決された場合は、定款第24条第2項第1号及び定款第25条に基づき会長が臨時総会を招集し開催する。
(平成20年12月を予定しているが、詳細は決定次第連絡)

委員会便り

つい意見交換を行った。交通広告実務者研修については、今年度も昨年同様各支部単位で「ビジネス概論」を教本に交通広告の基本実務について、及び「倫理」「美観風致」「安全」等の交通広告の公益的機能についての研修会を開催することとした。既に首都圏支部では9月8日に、近畿・中国・北陸支部では9月17日に研修会の開催が予定されている。

一方、海外視察研修については、景気動向の悪化により広告業界をとりまく環境も相当厳しいものとなっており、役員、会員、各委員からも、海外視察研修の実施については状況的にむずかしいとの意見が大半を占めていることから、今年度の海外視察研修は見合わせることにした。

調査研究委員会では7月30日に今年

平成21年度第1回理事会

日時・平成21年6月10日(水)13時00分
会場・グランドプリンスホテル赤坂

平成21年度定期総会

日時・平成21年6月10日(水)14時30分
会場・グランドプリンスホテル赤坂

※定期総会終了後、セミナー、懇親パーティーの開催を予定

4. 平成20年9月11日現在の委員会名簿

につきましては、JARPホームページをご覧下さい。

以上をもって平成20年度第3回理事会は16時02分に閉会した。

理事会就業後、同ホテル平安において九州支部主催セミナー、イオン株執行役中国総代表 田中秋人氏による「巨大市場中国へのアプローチ」北京からの報告2008に引き続き、懇親パーティーを開催した。

調査研究委員会

度第1回目の委員会を開催し、今年度の活動計画について意見交換を行った。マーケティング研修の実施については、JARP NEWSの紙面を通じて、隔月で「マーケティング講座」を今後も引き続き掲載し、今年度執筆者は(株)小田急

エージェンシー専務取締役寺田信之介氏の後を2回シリウスで株・電通・野雅之氏に依頼することとした。媒体活用事例と交互に隔月掲載予定。

なお、販促データシステムの今後の取扱いについては様々な意見交換を行ったが今回の委員会では方向が出るには至らず、別途委員会内で小メンバーにより打合せを行うこととした。その中で、現在当協会が発行している交通広告料金表だけでなく、販促データの基礎をなす駅利用者数、鉄道利用者数についても本来は協会として調査をするべきとの意見が出された。今後その収集と共有化も含め、販促運営の具体論について詰めていきたい。

倫理委員会

倫理委員会では8月19日に今年度第1回目の委員会を開催し、今年度の活動計画について打ち合わせを行った。冒頭、会長より「最近では企業として法令順守のみならず、社会的責任が問われる状況にあり、協会としても公益事業の一環として鉄道広告のデザインの審査について対応状況等の把握をしておく必要がある」との挨拶があった。これを受けて委員長からも、全国の媒体社がどの程度の件数の審査を行い、そのうちの程度の不届出が頻出しているか、どの様な業種・商品に不届出が多いかなどを調査し、今年度中に実態を把握することについて各委員の了解を求めた。今後事務局でアンケート詳細を設計して調査を実施するの

で、是非ご協力をお願いしたい。

業務近代化委員会

業務近代化委員会では8月25日に今年度第1回目の委員会を開催し、昨年各委員で実施した業務近代化に関する現場ヒヤリングの結果が報告された。各委員から指摘された交通広告の近代化へ向けた課題は大きく、「クライアントに対する提案力の強化」と「クライアント・媒体社間との日常的なトラブル回避・作業効率化の推進」に分類することができ、前者ではクライアントへの説得材料となる客観的なマーケティングデータの整備、提案力のある人材育成の必要などが、後者では媒体申込みからデザイン審査、掲出事務等トラブルへの対応などの標準化、EDI（電子データ交換）などデジタル化への対応の必要性が課題として挙げられた。今後委員会では更に調査対象員社を広げてヒヤリングを実施し、業務近代化に取組む施策のプライオリティを決定していきたいと考えている。

環境・安全委員会

環境・安全委員会では7月29日に小委員会を、8月26日に全体委員会を開催し、今後の活動計画について意見交換を行った。委員会としての最終目標は「事故率の減少」「重大事故の撲滅」であり、これに必要な①情報収集の整理②手続マニュアル・事例集③教育活動を3つの軸

として進めていくことを確認した。

JARAP会員各社および各方面から安全管理に関する資料を収集したものを整理し、項目ごとにまとめて編集した「安全管理規則参考文例集」を今後鉄道広告に従事する関係各社が安全管理に関する規則集を作成する際の参考となるように、冊子として今年10月を目途に発行することとした。

また、先に発行した「絵で見る安全作業マニュアル」をもとに委員各社で分担して収集した事故事例を事務局で整理し、教育用の素材として編集した事故事例「ケーススタディ」を絵で見る安全作業「マニュアル」の改訂にあわせて追加、発行することとした。

委員会の冒頭、岩崎会長から「今までは環境・安全をひとつの委員会として括ってきたが『環境』『安全』はそれぞれ研究テーマが異なるため、今後は委員会として各々の機能を充実させてはどうか」との提言があり、正式に副委員長が分離した後、当委員会は研究テーマを「安全」に特化した形で活動を充実させていくこととした。

技術開発委員会

平成20年7月23日（水）、今年度第1回目の委員会として以下3社のご協力を得、最新技術視察会を開催した。今回は鈴木憲治委員長および11名の委員に加

え岩崎会長、河田専務理事、小笠事務局局長も同行での視察会となった。

◆10・30・11・30
NTTコムウェアにて裸眼で
体感できる立体映像技術を視察。

特長としては2台のカメラ（人間の目のように配置してある）による実写映像から3D表示に必要な奥行き映像を自動生成し、表面に微細なプリズムを貼ってある見だ目には通常のディスプレイ裸眼立体視ディスプレイで表示するもの。大型ディスプレイでは多人数で同時に裸眼で視聴可能な立体映像となっている。ディスプレイとの距離や見る角度等により、効果的に立体映像が見えるポイントにある程度の制限があるなどの課題は残るものの、映像表現の一つの方向性を示すものとして注目される技術であろう。

◆13・00・14・30
SONYにて有機EL（エレクトロ・ルミネッセンス）を視察。

現在、最新の映像デバイスとして注目されている有機ELについて、民生品として発売されている11インチの有機ELテレビ、XELIーでの画像デモを見ながら、従来のプラズマや液晶ディスプレイとの比較を中心に特長をご説明いただいた。有機ELは、電流を流すと光る性質を持つ有機物質をパネルに採用、電流により発光する基本的な仕組みはプラズマと同じだがパネルの厚さには有機層を保護する2枚のガラスの厚みとは同等にできるた

め大幅な薄型化が可能となった。また、流す電流の量によって発光の強さをコントロールしており、電流がゼロの場合はまったく発光しないため深く美しい黒の表現が可能になり圧倒的なコントラスト比を実現した。わずかな電気で光らせたという画素のみ発光させるため省エネルギー効果も期待できる。一方、液晶ディスプレイの場合は画面の後ろに(光源として)バックライトが必要のため、黒の表現も厳密にはグレーに近いものになっていて、バックライトも常に一定の電力を消費している。このように有機ELは薄型・軽量・高コントラスト・豊かな色再現性・低消費電力などの優れた特長を持つが、まだ生産コストが高く、ディスプレイの大規模化には大規模な先行設備投資が必要なこと、ディスプレイの寿命も液晶やプラズマに比べて改善の余地があることなどの点が課題としてあげられる。

◆15:00~16:00

三菱電機エンジニアリングにて 指向性スピーカー技術を視察。

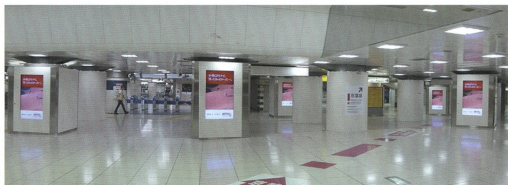
超指向性音響システムは、超音波を利用してスポットエリアにだけ限定的に音声を提供できる公共の場に最適なシステムである。スポットライトのようにビーム状に音が伝わるので並べて設置しても音声が混ざらず、複数の掲出媒体が近接する場においても干渉しあわない展開が可能。音を壁などによって反射させることもできるため、駅などでの案内や広告コミュニケーションでの多様な活用が期待できる。狭指向性スピーカーは特定方向にのみ音を拡げることができると、ホーム

の長手方向には音が拡がるが、枕木方向には音が拡がらないような音声情報の提供が可能となる。当初は鉄道の駅ホームアナウンス用に開発されたものだが、駅の既設アンプに接続可能、薄型筐体等の利点があり、案内に顧客対策が取れるので、映像表示装置や屋外広告と組み合わせた活用の用途も広がっている。いずれの音響システムも既に交通広告の現場や博物館等の施設、イベント会場等で実用、商用化されているものだが、各委員ともあらためて音響システムのデモを体験することにより効果を再確認することとなった。また、音響技術視察終了後、インタラクティブデジタルサイネージとして同社が6月より実用化したMEETVisionの紹介もあった。

◆今回の技術視察はいずれも、これからデジタルサイネージを支える有力なデバイス技術と考えられる点で有意義な内容となった。

調査研究委員会

近年、話題にあがるものといえば「デジタルサイネージ」がひとつあげられる。あらためて「デジタルサイネージ」という意味をひもとくと、タイムリーに映像や情報をディスプレイに配信、表示すること。テレビのように不特定多数に同一の情報を流すのではなく、ある程度ターゲットされたターゲットに対し、その場所での内容を絞り込んだメッセージを表現できる事が可能になる。つまり、屋外、店頭、交通機



東京駅デジタルポスター

関など公共的な場所での展開が有効となる。場所、ターゲットに合わせたリアルタイムに表示する内容を変更する事で注目率も高まり、より消費者へ新しい情報を伝達できる事となる。

ショッピングモール、金融機関、アミューズメント施設、予備校、飲食店などでの市場が拡大している中、J&R交通広告の

デジタルサイネージの動きは「トレインチャンネル」「ステーションチャンネル」に次いで2008年7月14日(月)より東京駅八重洲口で「デジタルポスター」として実施した。話題性も後押しする結果となり、外資系自動車、化粧品、ファッション、スポーツ他、様々な業種が出稿展開する事となった。

今回の東京駅デジタルポスターの主要素としては、以下の3つがあげられる。

●65インチディスプレイ10台

(柱5本両面)

ステーションチャンネルのサイズと同等サイズになるが、天井からの吊り下げ式と違い歩行者に近接した個所に設置してある為かなりのインパクトがでている。また、柱5本両面ということに関して、立ち位置によっては片側5画面がすべて見られるようになり、当該付近駅利用者にとって間違いなく視野に入る圧倒的なボリューム感となっている。

●任意で変更できる コンテンツ表示。

駅は、平日と週末で利用者の属性が変化することが性質のひとつである。東京駅は特に週末のレジャー目的利用者が増える傾向がある。デジタルポスターの機能として、任意によるコンテンツ表示が可能という特性がある。まさに平日と週末のコンテンツを変えする事でターゲットに合わせた展開が可能となる。5面のクリエイティブを変えストーリーリー性を持たせることでより高い訴求力をみせていたコンテンツもあった。

● 静止画による60秒間表示

広告枠としては静止画による60秒間

7月14日〜20日に展開されたタヒチ観光局のコンテンツでは1素材60秒を15秒に分け、4つのターゲット（ファミリー・カップル・OL・シニア）に合わせた内容で訴求した展開などがあり、有効な活用例といえる。



社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)

という表示内容である。これはデジタルというと動画にすぐ走りがちだが、それは設置個所次第ではないだろうか。駅の待合スペースなどで

タヒチ観光局

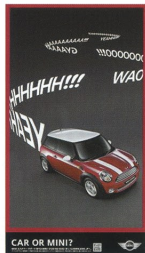


あれば動画コンテンツは十分に効果を発揮すると思われるが、移動圏である駅コンコースなどでは疑問である。1つのメディアに対しての接触時間が数秒となる為、利用者の視野に入った瞬間にインパクトを与える表現ができるかが課題となり、よって、動画表示というよりは静止画により1つの明確な情報伝達をする事、ブランディング的な展開に適していると感じる。ポスターと違っていったらそれがバツと変化する事で意外性も与えていた。

MINI



60秒



60秒



60秒

でデジタルサイネージの発展確立を目指すところである。

(株)ジェイアール東日本企画
クロスメディア局交通SPメディア部

部長 小嶋 孝志

首都圏支部

幹事会の開催

首都圏支部では8月6日に幹事会を開催し、冒頭佐々木信幸新支部長の挨拶の後、人事異動等の事由に伴う幹事の選任、今年度の活動計画などを審議した。主な決定事項は以下の通り。

1. 幹事の選任について

(退任)

小島紀久雄氏(元ジェイアール東日本企画)
永井秀雄氏(元オリコム)
西村友伸氏(元東急エージェンシー)
小林末光氏(元JARAP)

(新任)

佐々木信幸氏(ジェイアール東日本企画)
中山久義氏(オリコム)
大槻達郎氏(東急エージェンシー)
河田健治氏(JARAP)

2. 今年度活動計画について

- ① 支部総会の開催(2009年2月予定)
- ② 交通広告実務者研修の実施(9月8日)
- ③ セミナーの開催(年3回開催予定)
- ④ その他

① 新規会員の入会促進

② 関東交通広告協議会(11社会)との交流

③ 周辺エリア(高崎、新潟、長野、水戸)の活性化

● 支部便り ●

交通広告実務者研修の開催

前述の幹事会で決定した活動計画に基づき、新人等比較的交通広告ビジネス経験の浅い支部会員社員を対象に研修(交通広告実務者研修)を開催し、91名の受講者が熱心に講師の講義に耳を傾けていた。

研修後のアンケートも「わかりやすい講義のためになった」「できれば入社当初に聞いておきたい内容だった」「事例紹介がよかった」などの回答が複数見られた。

カリキュラム及び講師など概要は以下の通り。

日時：平成20年9月8日(月)
会場：E1S303

10:00～ 佐々木信幸支部長挨拶



熱心に聴講する支部会員の皆さま

10:15～ 安全研修
講師 曾我祐行氏

(環境・安全委員/東京メディアサービス)

11:10～ 美観事例
講師 渡辺信仁氏

(美観風致委員/NKB)

(昼食・休憩)

13:00～ 掲出基準
講師 中尾規生氏

(倫理委員/ジェイアール東日本企画)

13:55～ ビジネス概論
講師 萩原浩平氏

(人材育成委員/ジェイアール東日本企画)

17:00～ アンケート

事務局からのお知らせ

心臓移植募金協力をお願い

当協会正会員(株)博報堂DYメディアパートナーズアウトドアメディア局長 岩田天植氏のご子息天晴君(13歳)が重い心臓病を患い、米国での移植を希望し、手術費用等に充てる募金協力の新聞報道がありました。つきましては、会員社の皆様にもご支援、ご協力をお願いいたします。

詳しくは「天晴くんを救う会事務局まで。」

☎043-3061273

http://www.tensei-aid.com

編集後記

秋になると思出すのが、「安芸の宮島」です。かなりいい年になるまで、「秋の宮島」だと思い込んでいました。宮島は秋に訪ねるのが最良であり、だから「もみじまんじゅう」が名物なんだと勝手に思い込んでいました。間違いに気づいたときは、とにかくびっくりしましたが、誰にもこんな間違った思い込みのひとりつやふたつはあるんだろうと思っていますが…。

今年の秋は、日本三景の一つでもあり、世界文化遺産にも登録されている厳島神社に行ってみようかなと思っています。

皆様の秋の予定を教えてください。

●メールと写真、ご意見、ご感想はこちらへどうぞ。 information@jarap.jp

●会員社の代表者が必要になった場合など、変更届はJARAPホームページ(<http://www.jarap.jp>)の「各種届出書類」に用意してございますので、ご記入の上、事務局宛にお送り下さい。ご協力をお願いします。